



本号の主な内容
2面【学会の目・眼・芽】第2回 島田正氏
「植栽基盤診断士補研修会」6月から開催
造園CPD会員募集(前期)スタート
2、3面 公園施設長寿命化計画について 望月一彦氏
4面【随想】造園建設産業の「ゆくえ」小泉直介氏
【緑滴】岡田茂樹 【事務局の動き】



記念植樹をされる両殿下①
会場を巡られる両殿下②



平成21年度全国都市緑化祭は4月8日、桜満開の新政令指定都市岡山市に秋篠宮殿下、同妃殿下をお迎えし、開催中の第26回全国都市緑化おかやまフェア（3月20日～5月24日開催）メイン会場で開かれました。花と緑のテーマ館で開催された式典には県内外から関係者約500人が集まりました。

式典では、高岡岡山市長

岡山市民とともに都市緑化を推進します」と挨拶。が「この緑化祭を契機に、秋篠宮殿下から「花とみどりは暮らしにゆとりと安らぎを与えるとともに、ビートアイランダ現象の緩和、気候を和らげる効果があることを認識し、自然と人間が共存した街づくりを進め

ます。そのため、岡山

県から緑化運動の輪が広がることを祈念したい」との

お言葉がありました。

そのほか、式典では同

府の作品「備前岡山」「里山

の風景」をはじめ、岡山

県支部会員の出展の作品や

県内外からの作品を全て見

るために100年後の生物多様性から

取り組みの紹介にとどまつていた。

これまで、ヒト、モノ、情報の広域か

つ超高速な往来は地球環境を空間的に

かつてはないほどに狭めてしまった。

一方で我が国の人口は、2005年

から減少傾向に入り、本格的な少子高

齢化社会に突入した。

さて、限られた地球資源環境と国境

を超えた激しい社会構造変化のもとで

我々はどう生きていけばよいの

であろうか。

4月上旬とは思えないほど

気温も上がり、県内各地で

い暑い熱気を感じた春の一

日でした。

4月下旬の陽気となつた暑

い暑い熱気を感じた春の一

日でした。

5月下旬の陽気となつた暑

い暑い熱気を感じた春の一

日でした。

5月下旬の陽気とな

造園建設産業の「ゆくえ」

後編

日造協相談役
小泉直介

年の撫育管理を引き
行わせる制度とすべ
きである。

前編で述べたことの要点は、次の通りである。

ある。

施工一括発注制度に変えることで

特質である植栽工事を、施工者の自主
施工の下に取り戻せることになるし、
植栽工事の専門性が重視され、造園

が示されていることでもあり、造園
が示されていることでもあります。

施工一括発注方式のガイドライン
が示されていることでもあります。

施工者と造園コンサルタントが
協働して、自らの案を示す好機であ
る。待つていても発注者側からの提
示は、あり得ない時代であることを、

まずは認識すべきである。

枯れ補償制度は、生き物である植
物素材の活着を確保するために、古
くから造園工事において施工者が自
主的にやつてきた固有の制度である。今よ
うに発注者が仕様書に

枯れ補償制度の改善

枯れ補償制度は、生き物である植
物素材の活着を確保するために、古
くから造園工事において施工者が自
主的にやつてきた固有の制度である。今よ
うに発注者が仕様書に

枯れ補償制度の改善

枯れ補償制度は、生き物である植
物素材の活着を確保するために、古
くから造園工事において施工者が自
主的にやつてきた固有の制度である。今よ
うに発注者が仕様書に

枯れ補償制度の改善

<p